庭園 協会ニュース 第102号

一般社団法人 日本庭園協会

東京都新宿区西早稲田 1-6-3 フェリオ西早稲田 301 号
〒 169-0051　TEL:03-3204-0595（FAX 兼用）
E-mail : gsj20@m7.dion.ne.jp　URL : http://nitteikyou.org/

発行者：会長　高橋 康夫
編集者：広報委員長　小沼 康子
題　字：上原 敬二
発行日：2020（令和 2）年 10 月 15 日

ステイホームの中で金魚の観賞価値が見直されているという。「庭」も共通した意味合いがあるのではないか。（2020.8 月中旬　筆者撮影）

コロナ禍の自分

清水 哲也

〝コロナ〟と初めて聞いてから何か月が経つのだろうか。未知のウイルスの情報を連日のニュースで確認する生活が続いている。その中で皆さんは、何を思うだろうか。

この世に生を受け、たった一度の人生だからと懸命に過ごしてきた日々。今思えば、人生に対して誰もが〝素人〟なのだ。人生で初めて接する新型コロナウイルスにどう向き合えばいいのか、誰もが答えを探している。

今まで、当たり前のように過ごせた日常生活から、人々の意識が変わり始めている。普段何気なくあったものやできたことが規制されると、人はストレスを感じることも同時に知った今、私たちが携わっている「庭」の存在価値を個々が改めて考える時代になったのかもしれない。観光施設やテーマパークに行き、レストランで美味しい食事をして〝楽しむ〟ということを人任せにしていた時代から、身近に楽しみを見出す必要性を説いていく。そして、「庭」がそれになり得る価値のあるものだということを伝えなければならないのではないか。

一つだけ言えるのは、今後、確実に経済は悪化する。現実に仕事が減り、新規の依頼も減少している話を聞くと、呑気に構えてはいられない。造園業界には、数年遅れて影響が出てくるだろう。その時、〝淘汰〟の時代が来ると思っている。簡単に言うと、クライアントが金を払ってでも損しないと思える内容を提供できる者が必要とされる時代となる。この先、オリジナリティに富んだ仕事がますます求められるだろう。それに応えるには、先人たちが築き上げた造園の知識や技術がベースとなる。それらの習得の機会を設けるのも本協会の役割の一つだろう。

自分も五十代に突入しつつある。二十代の時に「歳を取って楽（らく）したければ、今頑張りなさい」と言われた。当時はその〝らく〟の意味が理解できなかったが、四十歳を過ぎた頃から何となく解かり始めた。若い時は、自分の意図にそぐわない仕事をしてきたが、段々と仕事に変化が見られるようになったのだ。自分のやりたいこと、伝えたいことが「庭」を通して表現できるようになった。大げさに言えば、自分の存在価値を解ってもらえるという〝楽〟だったのだと。

そう考えると、「庭」と「自分」は同じ意味を成す。世の中がどう変わろうとも、ブレない「自分」を確立することが、このコロナ時代を乗り切る唯一の答えなのではないだろうか。

（理事）

鑑賞研究委員会アンケート
～庭園の魅力をより多くの方へ～
アンケート調査報告

鑑賞研究委員会

◆ 調査期間：２０２０年８月初旬～8月31日
◆ 調査方法：紙面による記述式アンケート調査、郵送で配布し、郵送またはメール、FAXにて回収。
◆ 調査対象者と回収率：全会員（500名）に配布し、31名から回収（郵送17通、FAX12通、メール2通）。回収率6%。

はじめに

鑑賞研究委員会では、日本庭園の魅力をより多くの市民に知っていただき、庭園文化を発展させるための事業を行っています。今後、皆様のご意見をより多く反映させるためにアンケートを実施しました。

アンケートは①鑑賞研究委員会の今までの活動について②今後の企画について③鑑賞研究委員会についての要望・意見④委員会活動をサポートしていただける方について、ご意見を伺いました。

アンケート結果及びその分析を踏まえて今後の鑑賞研究委員会の事業の展開の方向性について報告します。

アンケート結果

【1】鑑賞研究委員会主催の活動について

(1) 見学会や講演会に参加したことがある方

日帰り見学会に参加された方が23名、講演会が22名で、一泊見学会が16名とやや少なかった。また、いずれの活動にも参加されていない方が4名でした。（図1）

(2) 参加した理由

庭園に興味がある方が参加しているのは当然ですが、その中でも参加理由で多かったのは、地方の庭園や非公開庭園を見たいという声でした。また講演会については講演者に関心があった及び講演テーマに興味があったがほぼ同数でした。（図2）

(3) 参加したことがない方

参加されていない方々からは、①費用が高い ②2日間は厳しい ③見学会を増やしてほしい（遠隔地は参加できない）という回答がありました。

(4) これまでに参加された講演会、研修旅行で印象に残っているもの

①日帰り見学会　神仙郷（箱根美術館）、浅草・伝法院、平櫛田中記念館（小平市）、バラクライングリッシュガーデン（蓼科）、など14カ所。
②一泊見学会　東日本大震災復興庭園（宮城県）、新潟地方の庭園、北畠神社庭園（三重県）の他16カ所。
③講演会
〈講演者〉尼崎博正、粟野隆、菊地正樹、龍居竹之介、戸田芳樹氏。
〈テーマ〉岩崎家の庭園・住宅、庭園をどう考えるか、日本庭園の１００年後を夢見て、東日本大震災復興

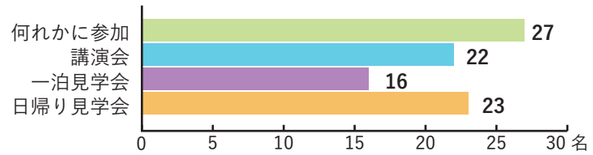


図１　参加経験　n=31

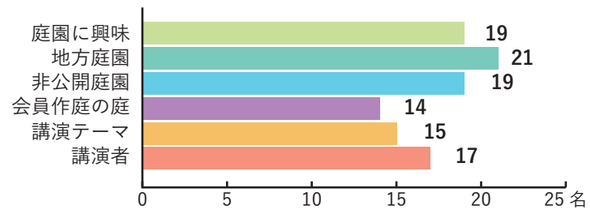


図２　参加理由　n=31

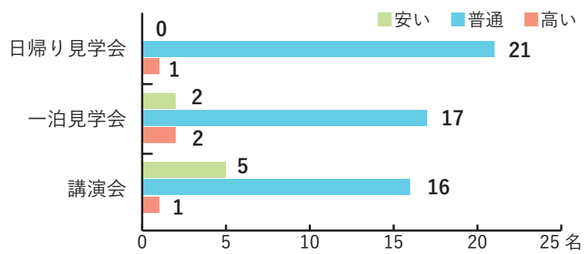


図３　参加金額　n=31

記念庭園を語る、庭をめぐる女性たち、日本建築の機能の優越性、岩城亘太郎「その仕事を見る・知る・語る」、南禅寺の庭を巡って。

(5) 参加金額について

参加金額については日帰り、一泊、講演会とも「普通」が大多数ですが、講演会については「安い」という方が数名いました。（図3）

(6) 開催希望日

開催希望日は、日帰り見学会は土曜日が多く、一泊見学会は土日と平日がほぼ同数でした。講演会は日曜か土曜日がほぼ同数でした。（図4）

【2】今後企画してほしい活動について

(1) 日帰り見学会

関東近県の庭園・建物、旧家の庭、支部紹介の庭、会員の作品、協会賞受賞者の庭、個人では見られない特別（非公開）庭園の見学、年間を通して3カ所ぐらいの庭に絞って四季の変化を見学、経験豊かな先輩の庭師や親方衆の作品、古庭園など。なお街路樹見学の要望もありました。

(2) 一泊見学会

青森をスタートに日本各地の古庭園、北海道のフラワーショー、東日本大震災復興記念庭園、一人の作庭者に限定した見学会（小川治兵衛など）、支部会員の作例、各支部若手の作品など。

(3) 講演会

〈講演者〉上野周三、加藤平一、隈研吾、重森千青、龍居竹之介、豊蔵均、三橋一夫氏、他業種（建築家等）。
〈テーマ〉庭と地球環境の関係、日本・中国の古典文学と庭園、他業種（建築家等）から見た日本庭園、庭のある暮らしと楽しみ方、歴史・哲学と日本庭園、現在進行中の会員による作庭について

(4) 市民向け鑑賞会

庭園鑑賞の作法、マナーを学ぶ会、身近な庭園で定期的に鑑賞会を開催する。

(5) 海外庭園見学会

米国ポートランド日本庭園の他、欧米の有名庭園。

(6) その他

同じ庭園のリピート、庭園勉強会、各支部が企画する庭園見学会等7件。

【3】鑑賞研究委員会の今後に期待する活動

- 個人、ツアーで体験できないような見学会、講演会
- 重要な古寺、時代を先駆けるランドスケープ、現代庭園見学
- 日本文化の追求から庭園を考える会
- 鑑賞会と研究会をリンクした討論会
- 東日本に偏らないで、西国の庭園見学の企画
- 高い専門性を持ったプロ級の説明者養成
- 個人庭園の施主の意向と作庭の苦労を知る
- 自然の景、大木、植生の価値等をテーマに専門家の説明と見学
- ホームページ上で配信、リモート会議の活用
- 会員間の親睦、活動の共有、委員会の視野を広げる
- 学割設定による学生参加促進など22件

【4】鑑賞研究委員会活動をサポートしていただける方

東京、神奈川、静岡、新潟の４名が表明。

鑑賞研究委員会の今後の展開

アンケート結果は前述の通りです。この結果から今後の鑑賞研究委員会の活動には次のような方針でのぞむことにしました。

①アンケート結果を今後の活動に十分反映させる
②事業に参加できない会員の方をフォローする

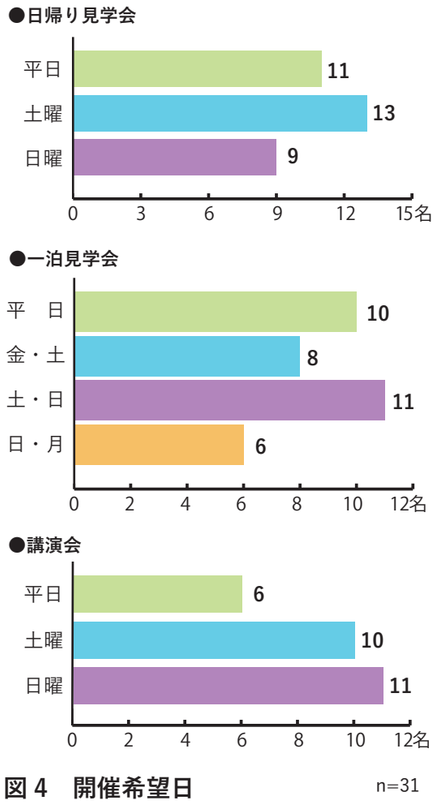


図４　開催希望日　n=31

アンケートの回答者はほとんどが事業に参加した方で、事業に参加した経験を踏まえて、より良い事業展開をしてほしいというもので、今後の事業実施に際し、とても参考になる意見です。そこで、今までの事業を顧みるとともにより良い事業を目指すために取り入れていくことにします。

一方、参加できない方は距離が遠い・参加費が高い・休暇をとれないなどの物理的な理由があると推測されます。今までの事業は、参加された方のみが享受できるものであり、参加しなければどのような庭園であったのか、どのような有意義な講演会であったのかが分からないままで終わっていました。参加したくても物理的な理由で参加できない方をフォローする事業が求められています。

この方針に基づき、より多くの方が参加できるよう、また、参加できない方にもフォローすることで、事業そのものを庭園協会全体で共有できるよう、いわゆる「組織知」を高める展開を目指していきます。

今後の大きな課題として、アンケート回答全体から浮かび上がった課題を「新たな展開を目指す方策八カ条」としてまとめました。これらを踏まえて、今後の見学会、講演会を始めとするすべての活動を会員の皆様とご一緒に進めて参ります。

皆様のご意見、提案などご連絡をお待ちしております。

新たな展開を目指す方策八カ条

1. 支部、本部共催の見学会、講演会
2. 各事業を資料として配信、情報の共有化推進
3. 事業開催時に参加者交流会開催
4. ホームページのさらなる活用（庭園協会全行事日程、申込方法等掲載）
5. 市民参加促進（地域ごとの庭園巡り開催）
6. IT化推進
7. 事業促進のための学割導入
8. 質の高い活動への挑戦

コロナ禍を生き抜く・「影響と対策」

アンケート調査報告

広報委員会

◆ 調査期間：2020年8月中旬～9月中旬
◆ 調査方法：紙面による記述式アンケート調査、郵送で配布し、郵送またはメール、FAXにて回収。
◆ 調査対象者と回収率：全支部長（19名）に配布し、全支部から回収。回収率100％

はじめに

想像を超えた新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちの日常が大きく変わってきている。

新型コロナウイルスの感染者は、大都市圏に多く見られているものの、全ての都道府県において確認されており、支部活動および支部会員の生活や仕事には少なからず影響を及ぼしているのではないかと思われる。

そこで、全国支部の地域状況を把握し、コロナ禍中とその後を生き抜く奮起と発想の転換のヒントを得るべく、全支部を対象に各支部長を代表回答者としてアンケート調査を実施した。

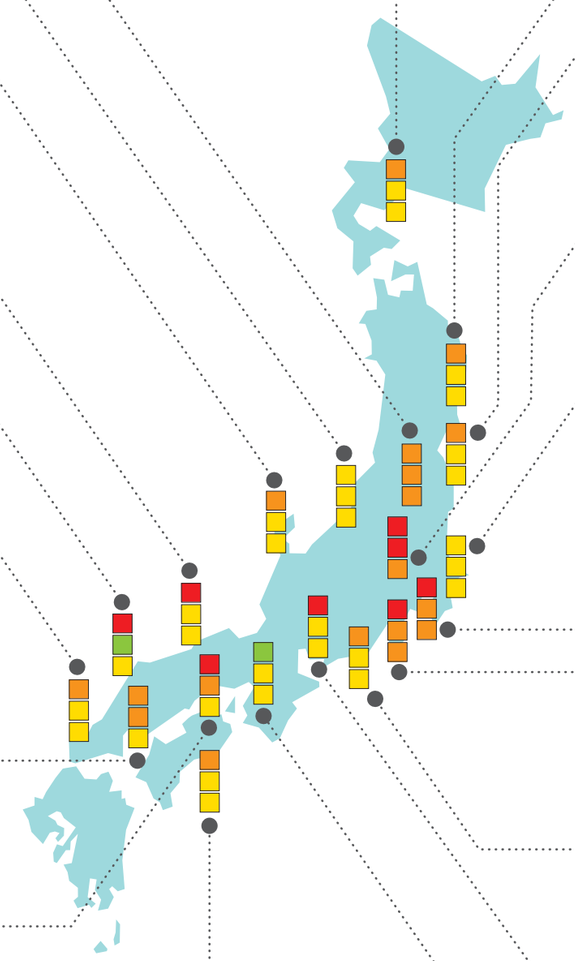
◆調査項目

Q1：支部の概要（設立年、会員数、会員の年齢層）
Q2：支部「活動」における影響と対策
Q3：支部会員の「生活」や「仕事」への影響と対策
Q4：今後の取り組みについて

◆調査結果

●支部の概要

回答者である全国19支部の概要は図1に示す通りである。



新潟県支部
前支部長：若杉 松男

設立年	1990（平成2）年
会員数	41人以上
会員の年齢層	30～70代以上

栃木県支部
支部長：清水 一樹

設立年	2010（平成22）年
会員数	～10人
会員の年齢層	30～60代

北海道南支部
支部長：桃井 雅彦

設立年	2004（平成16）年
会員数	14人
会員の年齢層	20代、40～70代以上

宮城県支部
支部長：菊地 正樹

設立年	2013（平成25）年
会員数	31～40人
会員の年齢層	20代～70代以上

石川県支部
支部長：向川 茂

設立年	1997（平成9）年
会員数	11～20人
会員の年齢層	60代

茨城県支部
支部長：飛田 幸男

設立年	2000（平成12）年
会員数	21～30人
会員の年齢層	60～70代

鳥取県支部
支部長：石亀 靖

設立年	2001（平成13）年
会員数	～10人
会員の年齢層	40～60代

埼玉県支部
支部長：石井 国義

設立年	1999（平成11）年
会員数	41人以上
会員の年齢層	30～60代

島根県支部
支部長：仲佐 修二

設立年	2016（平成28）年
会員数	11～20人
会員の年齢層	30～50代

千葉県支部
支部長：岩﨑 隆

設立年	1995（平成7）年
会員数	11～20人
会員の年齢層	40～70代以上

山口県支部
支部長：殿井 正敏

設立年	2000（平成12）年
会員数	11～20人
会員の年齢層	40～70代以上

東京都支部
支部長：鈴木 康幸

設立年	1996（平成8）年
会員数	41人以上
会員の年齢層	30～70代以上

広島県支部
支部長：藤原 忍

設立年	1996（平成8）年
会員数	～10人
会員の年齢層	50～70代以上

神奈川県支部
支部長：米山 拓未

設立年	1992（平成4）年
会員数	41人以上
会員の年齢層	20～50代

岡山県支部
支部長：三宅 秀俊

設立年	1996（平成8）年
会員数	～10人
会員の年齢層	40～70代以上

静岡県支部
支部長：石井 敬明

設立年	1995（平成7）年
会員数	21～30人
会員の年齢層	30～70代以上

四国支部
支部長：越智 將人

設立年	1996（平成8）年
会員数	21～30人
会員の年齢層	40代～60代

近畿支部
支部長：山田 拓広

設立年	1995（平成7）年
会員数	～10人
会員の年齢層	

愛知県支部
支部長：高見 紀雄

設立年	2010（平成22）年
会員数	21～30人
会員の年齢層	20代～70代以上

※香川県支部で設立。2017年名称変更

凡例

表示	内　容				
□	支部活動への影響	非常にあった	まあまああった	ほとんどない	全くない
□	支部会員の「生活」への影響	非常に多い	やや多い	あまりない	ない
□	支部会員の「仕事」への影響	非常に多い	やや多い	あまりない	ない

図1　支部の概要と新型コロナウイルス感染症による影響評価

新型コロナウイルス感染症拡大による影響と対策

●影響評価

新型コロナウイルス感染症による影響は、①支部の「活動」への影響、②会員の「生活」への影響、③会員の「仕事」への影響の3項目について、支部長判断によって4段階（凡例参照）で評価し、その結果を図1に示した。

上段が支部の「活動」、中段が会員の「生活」、下段が会員の「仕事」を示している。

項目別の影響評価の割合は下図のとおりである。

支部の「活動」への影響は、「非常にあった」が埼玉、東京、神奈川、愛知、岡山、鳥取、島根の7支部、「まあまああった」が北海道南、宮城、栃木、茨城、静岡、石川、広島、山口、四国の9支部、計16支部（84％）である。約8割強の支部が何らかの影響があったと回答している。また、「ほとんどない」が千葉と新潟で、「全くない」が近畿、計3支部（16％）で、影響を受けなかった支部は約2割弱である。

会員の「生活」に関しては「非常に多い」と回答したのは埼玉、「やや多い」は栃木、東京、神奈川、岡山、広島であわせて6支部（32％）であった。「ない」は島根、それ他の支部は「あまりない」で計13支部（68％）あった。

会員の「仕事」に関して「非常に多い」の回答はなかった。「やや多い」と回答したのは、栃木、埼玉、東京、神奈川の4支部（22％）、そのほか15支部（78％）は「あまりない」の回答であった。

「生活」と「仕事」共に影響があったと回答したのは、東京を中心とした関東圏の栃木、埼玉、東京、神奈川の4支部であった。

以上の結果により、ほとんどの支部では、支部の「活動」において新型コロナウイルス感染症拡大に配慮して何らかの活動自粛を実践したことが分かる。また、会員の「生活」や「仕事」では東京近県に影響がみられるものの全国的には比較的平静であったという現状がうかがえる。

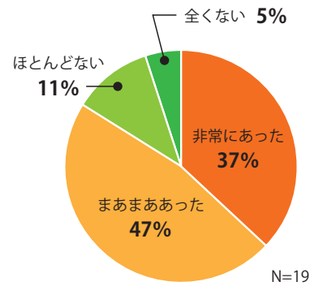
●影響の内容と対策

次に新型コロナウイルス感染症拡大による影響と対策についての支部から寄せられた回答を項目ごとに表に整理した。

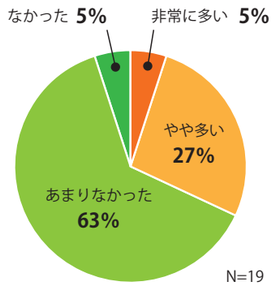
◆支部の「活動」における影響と対策（表1）

主な影響は、「会合や講習会、見学会など本年度計画していた事業の延期、または中止」である。対策としては、「有効な対策が立てられない」、「流れるまかせる」、「一年間は活動停止する」といった支部がある

●支部の「活動」における影響



●支部会員の「生活」への影響



●支部会員の「仕事」への影響

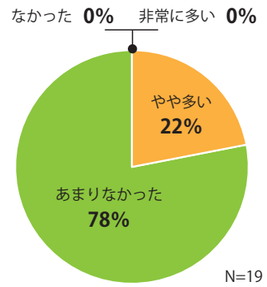


表1-1　支部の「活動」における影響と対策

支部名	影　響	対　策
北海道南	・予定していた講習会・会合が開催できなかった。	・今のところ、有効な対策が立てられない。
宮城県	・本部主催・支部共催の伝統庭園技塾を中止した。	・一年間の支部事業を自粛する旨の連絡を各支部員及び関係各位に会報にて伝えた。 ・東日本大震災復興記念庭園の維持管理は毎月第一日曜日に希望者を募り実施している。
栃木県	・行事等の開催ができない。	・現在のところ延期・中止。
茨城県	・庭園見学会及び支部総会を中止した。	
埼玉県	・3月に2回の研修会を予定していた。中旬の1回目は、予定通り開催し、下旬の2回目は外出自粛要請が出たため、参加予定者に再度状況を判断してもらい、開催。	・4月以降の支部活動は、感染状況を見て延期とした。 ・10月に研修会を再開する予定である。
千葉県	・個人のお客さまは、屋外作業に対して気にされていない様子である。	
東京都	・2月23日開催の連続交歓講座以来、支部総会などの会合が開けていない。 ・支部長交代のため、書面での開催ではなく、顔を合わせて開催したいが、正式に決まっていない。	・東京は感染者が非常に多いため、幹部同士の集まりも控えている。 ・10月には、今後の対策や支部の活動について、少数で集まることを検討している。
神奈川県	・緊急事態宣言が発令され、予定していた講習会を延期した。	・緊急事態宣言が解除されるまで、準備期間として待機してできることを進めて世の中の動きに合わせて開催期日を決めた。 ・体調の悪い者は参加を見合わせてもらい、当日は受付で検温、消毒、マスク着用をして、ソーシャルディスタンスを保ち、感染対策に万全を期している。

宮城県支部「定例維持管理作業」2020年7月5日
宮城県大和町 東日本大震災復興記念庭園　参加者10名
毎月第一日曜日に3密に配慮して実施

池周囲の漏水防止作業

石碑周りの草刈り作業

神奈川県支部「関東の粘土による瓦土塀講習会」
2020年10月4日　小田原市久野 阿育王山総世寺敷地内
参加者50名　感染防止策を徹底して開催

活動前の検温

混入ワラの切断

赤土にワラを混入

表1-2　支部の「活動」における影響と対策

支部名	影　響	対　策
新潟県	・会議、懇親会がなくなった。	
石川県	・県内の造園業社から新型コロナウイルス感染者がでている。	・活動しようにも、あまりに人を集めにくい。この1年は活動中止として、自分たち自身を守り抜いていくことが重要である。
静岡県	・研修旅行や大規模研修会の中止。小規模研修会を実施した。	・特に、対策はとっていない。流れにまかせる。実施しても肩がこるだけである。
愛知県	・本年度開催予定のイベントの中止に伴い活動を中止した。 ・打ち合わせなども3密を避けるとのことで延期。 ・本部との共催企画も中止した。	・活動再開は未定。
近　畿	・支部活動ができていないため影響はない。	
岡山県	・見学会を中止した。 ・会合等集会を中止した。	
広島県	・見学会等予定していた行事ができない。	
鳥取県	・京都で石材研修を計画していたが中止した。	
島根県	・県外から講師を招いて講習会開催を予定していたが、延期した。	・今後、新型コロナウイルスの感染状況をみながら計画する予定である。
山口県	・支部総会や幹事会を開催することができない。	・電話による連絡だけとなった。
四　国	・支部総会や役員会の開催は中止とした。 ・支部研修会などは、6月以降は中止とした。	・総会は書面決議とし、役員間の情報連絡はSNSで対応した。

一方、宮城県支部では有志を募り活動し、神奈川県支部では規模の縮小および感染予防策を講じた上で活動再開している。概して、地域の感染状況を見ながら支部ごとに判断するという回答であった。

◆会員の「生活」への影響と対策（表2）

会員個人の「生活」では「外出を控え、人と会う機会が減った」、そのことにより、「息苦しさを感じる」という声があった。対策としては、「必要最小限の移動」、「連絡はオンラインで」といったように従来の電話やメールの他、新しいコミュニケーションツールの利用が試みられている。また、外出を控えたことにより「本を読むようになった」といった回答もあり、外出自粛によってできた時間を有効に使っている様子もうかがえる。

◆会員の「仕事」への影響と対策（表3）

個人のお客様対応の仕事をしている会員は、「自粛期間中の訪問や対面での打合せを控え」、「工事は延期」していた。「東京のお客様から来ない方がよい」と配慮された例もあった。公共工事では延期があったものの、「徐々に再開しており、大きな影響ではない」というのが、おお方の見方である。しかし、さほどの影響はないとしつつも、「仕事量が減った」という会員の声もあり、「今後深刻化してくるのでは」と危惧する回答もある。

会員が携わる「仕事」が個人か、公共かによって、現時点での影響は若干異なっているが、今後、社会経済が落ち込めば、個人、公共ともに影響が出るであろうことは想像に難くない。そこで、対策として「今後の受注動向に注意が必要」という回答には留意したい。さらに、今できることとしては、「手洗い、マスク着用、ソーシャルディスタンスの確保」など感染防止対策を実施すること、「依頼された仕事を優先的にやる」といった地道な姿勢がうかがえた。

●今後の取り組み

コロナと共存する「新しい生活様式」あるいは「アフターコロナ」に向けての取り組みについては、表4のとおりである。

支部の「活動」における取り組みでは、「活動自粛によってできた時間を有効に使って、会員各々によって自分自身を見つめなおす格好の機会ととらえるべき」といった前向きな回答があったほか、今回の騒動で顕在化したという「連絡手段の多様さによる事務連絡の停滞から、支部事務局の開設や連絡網の整備が必要」とする回答がある。連絡手段としては、「ZOOMによるリモート会議やイベントの開催」、「講演会のアーカイブ配信などWeb利用を検討したい」という回答などから、支部運営においてIT時代に即した対応を検討する兆しが見える。この件に関しては本部への要望もあったことから、本部、支部が一体となって取り組む課題であろう。

会員の「生活」における取り組みでは、影響がさほどないことから、会員の「生活」は変わらないという回答もあったが、「3密を避ける、手洗い、うがい、マスク着用といった感染予防対策をする『新しい生活様式』が日常となることを受け入れ、実践する」とする回答も多い。その中で、「地球上で様々な生き物と共存していくには制約がある」という回答は、今後、私達が「ウィズコロナ」を許容し、順応する道を選ばざるを得ないことを示唆している。

会員の「仕事」における取り組みでは、現状は大きな影響は見られないが、「長期化による景気の悪化が

表2　支部会員の「生活」への影響と対策

支部名	影　響	対　策
宮城県	・毎日の活動範囲が狭くなり、息苦しさを感じる。	・早く以前のような活動や生活ができることを願うという声が多く聞かれた。
栃木県	・不要不急の外出自粛、都道府県を跨いでの移動自粛。	・各種対策の上、必要最低限の移動とする。 ・連絡はオンラインでの対応とする。
茨城県	・集まりがなくなった。	
埼玉県	・プライベートでも人と直接会うことが減り,ZOOMで人と会うようになった。 ・新型コロナウイルスに感染してしまうと家族への影響が大きいため、仕事以外で人と会うことを控えている。	・外出することが減り、本を読むようになった。読むことにより発見があり、興味の範囲が広がった。
東京都	・外出を控えるようになった。 ・各地の庭園、美術館、建築物等色々と見学に行きたいと思っているが、すべ控えている。	・電車の利用を最小限にし、車での移動を多くした。 ・旅行は、全くいかないようにしている。帰省等もせず、電話や贈り物をした。
神奈川県		・外出することは少なく、鉄道での移動はなるべく避けることが多くなった。
新潟県	・会議、懇親会がなくなった。	
岡山県	・会員の奥様が介護関係の仕事のため、集会等の開催が難しい。	
広島県	・会合など人が多数集まることや行事ができない。 ・持病がある会員は、病院などへの行き来に時間がかかる。	・会員との交流はTELなどにて行った。

表3　支部会員の「仕事」への影響と対策

支部名	影　響	対　策
宮城県	・感染症が長引くと今後の受注量が減るのではないかと心配する声があった。 ・資格試験が延期となり、今後の見通しがつかないという声があった。	
栃木県	・現場（特に公共工事）における感染防止対策が求められる。	・各種対策の実施。 ・業務の受注は、今後深刻化してくるものと危惧している。
茨城県	・県南方面では工事のキャンセルが数件あった。	
埼玉県	・東京のお客様から来ない方がよいと言われ、仕事は延期した。 ・東京のお客様とは対面での打合せではなく、リモートの打ち合わせとした。 ・マンションの管理物件では自粛期間中の仕事は延期になった。大勢の人と関わるので仕方ない。	・自粛解除後に改めて伺うようにした。・説明のための図面をいつもより詳しく書いた。・今できる仕事を優先的にやった。 ・野丁場、出会い丁場、職人の多い現場ではマスクを着用し、手洗い、うがいはこまめに行った。 ・お客様と話す時にはどのような場合でも自然な感覚で距離を取り、マスクを着用した。
千葉県	・ホームセンター等売店での対面では、始めの頃出足が遠のく傾向があったが、自粛による自宅滞在時間が増え、自宅のお庭の整理改造の機運がつのり、時間が長引くにつれ、逆に売り上げの伸びにつながる結果となった。	
東京都	・積極的にお客さんに、仕事の提案や、また、訪問等をすることは控えている。 ・全体的には、仕事への影響は、さほど多く感じない。手伝い等も盛ん。しかしながら、仕事量が減っているという会員もいる。 ・お客さんが在宅しているため、庭に手を入れたいと仕事の依頼が発生している。	・依頼のあるものを中心に、仕事をしてきた。
神奈川県	・ゼネコンやハウスメーカーの仕事（工事）は延期。 ・東京に近いこともあり、感染者が多く警戒感が強く個人宅の仕事も延期になることがあった。	・各自、様々な行政の助成を申請して、会社に補填した。
石川県	・3月～8月までのところ、影響はない。 ・お客様個人あるいは会社などの仕事がおもわしくなくなれば、これから厳しくなると思われる。	
静岡県		・新型コロナウイルス感染症対策のため、建築工事が遅れ気味になり、その後の造作が進まなくなったと聞いている。
近　畿	・支部会員ではないが、造園連、日造協の方々を見ると現状では大きな影響は見られない。 ・生花販売なども行っている方は厳しい状況かもしれない。	・今後の受注動向には注意する必要がある。

造園業界にも影響が及ぶ」と懸念され、そのためには何らかの対策が必要としながらも、「一生懸命考え、行動すること」、「大きな欲を持たず地道にいくことだ」などの回答は、立ち止まらず前向きである。さらに、一時中断したとはいえ依頼が絶えない「庭」に関する仕事は、「在宅時間が増えたこのような時にこそ必要とされることを実感した」、さらに、「日本文化を見つめる良い機会と捉える」という回答からは、今後、取り組むべき課題が読み取れる。

以上の結果から、「新しい生活様式」は、支部の「活動」および会員の「生活」や「仕事」において、もはや当り前、つまり「コロナと共存」が日常となっていることが分かる。

「アフターコロナ」に向けてのヒントは、社会情勢の変化に不安を覚えるものの、今回の自粛期間中やその後に見出した個人としての、あるいは組織としての課題に、会員各々が真摯に向き合い、その解決に向けて、会員の「生活」や「仕事」及び支部の「活動」の歩みを止めないことが重要であるとする気付きにある。もちろん、本部および支部が一体となって課題に取り組み、歩み続けることが望まれる。

コロナと共存する「新しい生活様式」あるいは「アフターコロナ」にむけて

表4-1　支部の「活動」および支部会員の「生活」と「仕事」における取り組み

支部名	支部の「活動」における取り組み	支部会員の「生活」と「仕事」における取り組み
北海道南	・支部活動の停滞はしばらくは仕方がないと考えている。また、支部会員に役立つ情報を発信していきたい。 ・支部活動は停滞するが、支部会員にとっては、今の自分を見つめなおすよい機会だと思う。各個人が今までやってきたことを振り返りながら、何がしたいのか、何が足りないのか、これから何をすべきなのかなど、自身を見つめなおす時間を持ってもよいのではないかと思う。	・生活に関しては、報道等で言われている対策をしながらの生活が日常になるのではないかと思っている。 ・函館は今のところコロナウイルス発症数はほとんどなく、仕事に関しては現時点での造園業界に関する影響はほぼない状態であるが、今後の経済情勢によっては影響が出てくるかもしれない。情勢を見ながら何等かの対策をしていかなければならないと思う。
宮城県	・先進国では最も遅れているといわれる日本のIT関連社会とテレワークを造園界でも積極的に取り入れ、日常の業務に活用が望まれる。 ・全ての社会生活や経済活動は常にウィズコロナを意識して行動する生活様式に変えることが求められる。 ・支部会議や多人数が集まる講習会はいわゆる3密にならないようソーシャルディスタンスを徹底する。	・打ち合わせなどでお客様と接するときは、必ずマスクの着用をする。 ・職業上、高齢のお客様との打ち合わせをする際、前もって電話で内容の確認を行い、対面する場合は少し距離をおいて話すようにする。
栃木県	・関係団体の行事、集会も軒並み延期、中止となり、事態の推移を見据えた上で、会員や協会本部、地域の人々の理解が得られるような形で、活動の再開に取り組んでいきたいと考えている。	・仕事については、今のところ顕在化している部分は少ないが、これから影響が出てくるのではないかと心配に思う。 ・行事などが今までの形で開催できるのか不安である。
茨城県	・3密を少なくする方法での講習会や見学会をこの秋または来春早々から実行することにした。	・あまり変わりがない。
埼玉県	・新型コロナウイルス感染症は、いつ終息するかわからず、周期的な流行があるかもしれない。感染拡大から半年が過ぎ、対処方法もわかってきた。正しく恐れて、感染対策をしっかり施し、新しい日常でのできる範囲、方法で支部活動を行っていきたい。	・地球上で様々な生き物と共存していくには制約があるのはしょうがない。新しい生活様式が、当たり前の生活様式になるだろう。 ・コロナ禍でも仕事を頼んでくれるお客様は多く、仕事が終わるととても喜んでくれる。庭を必要としている人は多いのだと実感している。今まで以上真摯に仕事に取り組んでいきたい。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で仕事が減った職種が多くある。私たちの職種への影響は限定的だと思うが、大変な状況の人たちを想い、生活にも仕事にも謙虚になりたい。 ・今の状況は、誰もが経験のない出来事で、この先どうなっていくのかわからない。しかし、今まで通りとはいかなくなっても一生懸命考え、行動すれば仕事を続けていけると考えている。

表4-2　支部の「活動」および支部会員の「生活」と「仕事」における取り組み

千葉県	・大きな影響のない状態で推移しており、先述の状況の中、手近な身の回りの見直しに繋がって、むしろ今後の仕事の受注が伸びるのではないかと、期待している。 ・元々お庭に関心のある文化度の高い方々がお客様なので、日本文化を見つめる良い機会になればと、良い方に考えている。	・多くの支部会員はさほどのダメージはないものと思う。
東京都	・複数での会合ができない状態でリモートでの会議も難しい状況なのでコロナが落ち着くまで活動しない方が良いと判断した。 ・以前から課題となっていたが、会員相互の連絡の手段がメール、FAX、ライン等々と各々が違うため、全会員が共通して使用しているものがなく、最後は電話連絡となってしまう。今後のためにも、連絡方法のルール等を考える必要があると思う。 ・支部事務局の開設や、連絡網の整備も必要である。 ・手洗い、うがい、マスク着用を徹底し、とにかく人と会わないようにしている。	・自粛期間中、以前仕事をさせていただいた方々から連絡があり、ちょっとした仕事をした。テレワークによって在宅時間が増え、気になるところが目立ったのだろう。 ・以前と変わらないという会員も多い。 ・マンションの仕事で、一時管理人がいないと行えない等あったが、3密にならないので今は、平気になった。 ・お寺の仕事では、暑いのでマスクを外しているが、訪れた方から話しかけられたりするので、困惑した。 ・こんなご時世なので、お客さんからのお茶を辞退している。 ・政府の対策が尽きて、来年は社会状況が悪化し、仕事へ影響が出るのではないかと懸念している。
神奈川県	・講習会の規模や参加人数も多いので感染対策を万全にして、再度緊急事態宣言が発令された場合はすぐに中止する。 ・急がず、世の情勢を見ながら会員の健康を第一に考え、日々の活動を進めていきたい。	
新潟県	・本部でのリモート会議のセッティングを要望する。	・会員は、それなりに仕事はある。ともあれ忙しくしている。 ・これから持続化給付金の申請を検討する会員もいる。 ・現在、支部としては具体的な対応はしていないが、サポートを求める声があれば検討する。
石川県	・これから模索していくところである。 ・会員はコロナといえども何かを求めている。それに応えたい。	
静岡県	・県外への移動、活動（特に東京）が制限され、県内で煮詰まる状況。マスク、フェイスシールド装着での作業は到底無理である。 ・個人あるいは支部としてコロナ禍の終息を願うのみ。コロナそのものの全容が分からないのに、アフターコロナにどう取り組めばよいのかわからない。	
愛知県	・打ち合わせなどはリモートでの利用を中心とする。 ・今後のイベント、講演会に対してもアーカイブ配信などWebを利用しての取り組みなど検討したい。	・一部の会員は影響があるが、幸い屋外での仕事ということもあり、新型コロナウイルス感染症の影響は薄い印象である。
近　畿	・健康的な生活を行う上で庭園緑化は大切となることを啓発、提案したい。	
岡山県	・今後についてどの様にすべきか検討中。	・業界そのものについて他業種ほど影響を受けにくいと思われるが、長期になってくると何らかの影響が出てくるのではないかと思っている。
広島県	・今までやってきた十分とはいえない手洗い、消毒、マスク着用等をきちんと実践する。	・新型コロナウイルス感染症や自然災害対策に伴い国が歳出する金額は膨れ上がっている。時間差はあれ必ず造園業界にも影響がある。相手がいての仕事、施主は必ず支出を締める。現状ではあまり大きな欲を持たずに地道に行くことだ。
鳥取県	・ソーシャルディスタンスの確保の意識付け。	
島根県	・感染状況をみながらコロナ対策をして活動していく予定である。	・お客様や周りの人へ配慮をしながら生活や仕事をする。 ・手洗い、マスク着用などの新型コロナウイルス感染症対策を徹底する。
山口県	・研修会や総会等多くの人が参加する行事がやりにくくなると思う。今後の課題は実践方法の検討である。	・会員各々のやり方で乗りきることとなる。

日本庭園協会
国土交通大臣賞受賞！

一般社団法人日本公園緑地協会が主催する第36回都市公園等コンクールにおいて、日本庭園協会（以下当協会）は、作品名『都立芝公園もみじ谷の「もみじの滝」』（施工部門）が最も優秀と認められ「国土交通大臣賞」を受賞しました。表彰式典は10月28日（水）に開催された令和2年度「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会にて行われました。

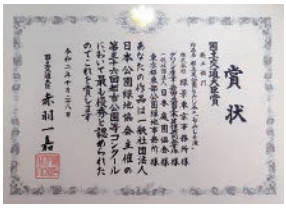
受賞したのは 連名応募による次の4団体です。

設計：（株）緑景東京事務所
施工：グリーン産業・岩田造園土木建設共同企業体
統括監理：（一社）日本庭園協会
発注：東京都東部公園緑地事務所

現在のもみじの滝

竣工当時の紅葉谷（※）

受賞４団体　表彰式後の記念撮影


国土交通大臣賞　表彰状

当協会は芝公園園池改修工事（その2）における石組の検討会に龍居竹之介名誉会長、廣瀬慶寛常務理事・技術委員長を派遣し、設計及び施工の「経験豊富な滝専門の監理技術者」として参画し、改修工事を統括監理しました。

都立芝公園は１８７３（明治６）年の太政官布達により日本で最初にできた公園の一つであり、設計は日本人初のランドスケープデザイナーといわれる長岡安平です。「もみじの滝」は、現在都内に残る唯一の長岡安平の設計遺構であり、１９０６（明治39）年に完成し、その後崩落等があり、部分的に改修が行われていましたが、今回、3年をかけて抜本的な再整備工事を行ったものです。後世に伝えるべき貴重な歴史的造園遺構、長岡安平が手がけた滝が龍居名誉会長と廣瀬常務理事・技術委員長の卓越した経験と技術力により、現代に蘇ったのです。改修工事の詳細は次号にて報告します。

（※）公益法人東京都公園協会みどりの図書館東京グリーンアーカイブス所蔵

北海道南支部・外山正幸氏の庭が『ポツンと一軒家』に再登場

北海道南支部の前支部長外山正幸氏が永年にわたる庭師としての集大成としてつくり続けている庭園「静寂の郷」が9月27日（日）放送の人気テレビ番組『ポツンと一軒家』で紹介されました。外山氏は昨年に続き2回目の登場で、その後の様子がリモートで紹介されました。

2008 年の伝統庭園技塾。前列中央に外山氏

「静寂の郷」では、２００５（平成17）年と２００８（平成20）年に伝統庭園技塾が開催され、1回目は合計６００トンもの巨石を使った枯滝石組、2回目は高さ5．5メートル、全長30メートルにわたる城積みを完成させました。番組では、「11年前の日本庭園協会の講習会場に」のキャプション付きで完成した城積み前での集合写真がオンエアされました。

編集後記

★巻頭言の写真は、清水哲也さんが癒されたという金魚水族館の1コマ。

★本号では2件のアンケート調査の報告を掲載／鑑賞研究委員会主催の「庭園の魅力をより多くの方へ」を踏まえ、「新たな展開を目指す方策八カ条」が示され、今後の展開が待たれます／広報委員会主催「新型コロナウイルス感染症による影響と対策」の結果からは、会員の生活や仕事に大きな影響がなかったことにひと安心。「こんな時こそ庭園が必要」といった前向きな回答に希望が見えました。共にアンケート調査へのご協力に感謝します。

★創立１００周年記念事業講演会の内容は次号に掲載します。

編集担当：小沼康子／内田 均／鈴木貴博／豊蔵 均
本文デザイン：由比まゆみ